

平成24年度
博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [採択時公表]

機関名	長崎大学	機関番号	17301
1. 全体責任者 (学長)	<small>※ 共同申請のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。</small> <small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 かたみね しげる 片峰 茂 (長崎大学長)		
2. プログラム責任者	<small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 しらべ すすむ 調 漸 (長崎大学理事(研究・社会貢献担当))		
3. プログラム コーディネーター	<small>(ふりがな)</small> 氏名・職名 もりた こういち 森田 公一 (長崎大学熱帯医学研究所・教授)		
4. 申請類型	0 <オンリーワン型>		
5.	プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム	
	英語名称	Program for Nurturing Global Leaders in Tropical and Emerging Communicable Diseases	
	副題	世界の安全、安心に寄与する感染症制御専門家、リーダーの養成を目指して	
6. 授与する博士学位分野・名称	博士(医学):熱帯病・新興感染症制御専門家		
7. 主要分科	(①) (②) (③) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入 社会医学、内科系臨床医学、基礎医学		
	(① 公衆衛生学・健康科学) (② 感染症内科学) (③ ウイルス学) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
8. 主要細目			
9. 専攻等名 <small>(主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)</small>	大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻、熱帯医学研究所		
10. 連合大学院又は共同教育課程による申請(構想による申請も含む)の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			
連合大学院		共同教育課程	
11. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)			

(機関名:長崎大学 申請類型:オンリーワン型 プログラム名称:熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成25年度における役割)
(プログラム責任者) 調 漸	シラヘ スム		長崎大学理事 (研究・社会貢献担当)	神経内科学 医学博士	プログラム運営の統括
(プログラムコーディネーター) 森田 公一	モリタ コウイチ		長崎大学熱帯医学研究所・副所長・教授	ウイルス学 医学博士	プログラム実施の統括、リスクマネジメント学、コミュニケーション教育推進
西田 教行	ニシダ ノリキ		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・専攻会議長・教授	病原微生物学 博士 (医学)	サブコーディネーター (基礎医学領域担当)、ウイルス学、感染症制御学
河野 茂	コノ シゲル		長崎大学理事 (病院担当)・大病院院長	内科学 医学博士	サブコーディネーター (専門教育領域担当)、感染症制御学
山本 太郎	ヤマモト タロウ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	国際保健学 博士 (医学・国際保健学)	サブコーディネーター (海外実践教育担当)、国際保健学、コミュニケーション教育
稲田 俊明	イナダ トシキ		長崎大学言語教育研究センター・センター長	言語教育学 修士 (文学)	サブコーディネーター コミュニケーション教育の統括
須齋 正幸	スサイ マサユキ		長崎大学理事 (国際・危機管理担当)	財政学・金融論、 商学修士	選択科目 (国際経済学、組織管理論)、 リスク管理論
Laothavorn Juntra	ローサホーン チャントラ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	臨床開発学 理学博士	国際保健学 コミュニケーション教育
金子 修	カネコ オサム		長崎大学熱帯医学研究所・教授	寄生虫学 博士 (医学)	寄生虫学 (原虫学)、熱帯感染症制御学 (原虫病制御)
平山 壽哉	ヒラヤマ トシヤ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	細菌学 農学博士	熱帯細菌学、熱帯感染症制御学 (細菌感染制御)
濱野 真二郎	ハマノ シンジロウ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	寄生虫学、免疫学 博士 (医学)	寄生虫学、熱帯感染症制御学 (寄生虫病制御)
平山 謙二	ヒラヤマ ケンジ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	免疫学 医学博士	免疫遺伝学、倫理教育
皆川 昇	ミカワ ノボル		長崎大学熱帯医学研究所・教授	環境医学 PhD	病害昆虫学 コミュニケーション教育
有吉 紅也	アリヨシ コウヤ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	感染症内科学 博士 (医学)	熱帯感染症制御学 (内科学) コミュニケーション教育
橋爪 真弘	ハシヅメ マサヒロ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	公衆衛生学 博士 (医学)	熱帯感染症制御学 (小児科学)、 フィールド疫学、コミュニケーション教育
一瀬 休生	イチノセ ヨシオ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	細菌学 医学博士	フィールド研究支援 (アフリカ拠点)、 コミュニケーション教育
山城 哲	ヤマシロ テツ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	熱帯微生物学 博士 (医学)	熱帯微生物学、フィールド研究支援 (ベトナム拠点)、 コミュニケーション教育
安田 二郎	ヤスタク ジロウ		長崎大学熱帯医学研究所・教授	ウイルス学 博士 (理学)	ウイルス学、熱帯感染症制御学 (新興感染症)
Gulleton Richard Leighton	ガルトン リチャード レイトン		長崎大学熱帯医学研究所・准教授	寄生虫学 PhD	寄生虫学 (マラリア) コミュニケーション教育
中込 治	ナカゴミ オサム		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	分子疫学 医学博士	ウイルス学、感染症制御学 (ウイルス感染症)、 コミュニケーション教育
森内 浩幸	モリウチ ヒロユキ		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	小児科学 医学博士	小児感染症学
由井 克之	ユイ カツユキ		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	免疫学 医学博士	免疫・遺伝学 (感染免疫学)
松山 俊文	マツヤマ トシフミ		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻・教授	ウイルス学、分子生物学 医学博士	ウイルス学

(機関名:長崎大学 申請類型:オンリーワン型 プログラム名称:熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム)

15. プログラム担当者一覧(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成25年度における役割)
中山 浩次	ナカヤマ コウジ		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症 病態制御学系専攻・教授	病原微生物学 菌学博士	細菌学
小林 信之	コバヤシ ノブユキ		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・新興感染症 病態制御学系専攻・教授	ウイルス学 薬学博士	ウイルス学
神谷 保彦	カミヤ ヤスヒコ		長崎大学国際連携研究戦略本部・教授	国際保健学 博士(医学)	国際保健学 コミュニケーション教育
長谷部 太	ハセベ フトシ		長崎大学国際連携研究戦略本部・教授	ウイルス学 博士(医学)	フィールド疫学(人獣共通感染症) コミュニケーション教育
柳原 克紀	ヤナギハラ カツノリ		長崎大学病院感染制御教育センター・副センター 長	感染症制御学 博士(医学)	感染症制御学(内科学)

(機関名:長崎大学 申請類型:オンリーワン型 プログラム名称:熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム)

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【プログラムの必要性と概要】

熱帯地域を中心とした開発途上国には世界人口の 8 割を超える人々が生活しており、今なおマラリア、デング熱、トリパノゾーマ症などの熱帯特有の感染症により多数の患者が発生している。一方、あらゆる分野で進展するグローバル化の潮流は地球規模でのボーダーレスなヒト、モノの移動とアジア・アフリカ地域における自然開発、人口増加、都市化をもたらし、熱帯病・新興感染症のアウトブレイクと伝播を容易にしている。その結果、健康被害や経済損失が広範囲に発生し、熱帯病・新興感染症は開発途上国のみならず先進諸国においても安全・安心な生活を脅かす重大な要因となっている。西ナイル熱のアメリカ大陸への侵入(1999)、重症呼吸器症候群(SARS)の出現と流行(2002)、鳥インフルエンザH5N1のヒト感染の拡大(2003)、新型インフルエンザH1N1(2009)のパンデミック等の事例は記憶に新しいところである。このような熱帯病・新興感染症対策には、利用可能なリソース(機材、人材、資金等)を動員し正確な科学的根拠に基づき効果的な対応を主導できる優れたリーダーシップを備えた国際的人材の充実が急務である。

本学位プログラムにおいては、取り組むべき課題として「熱帯病・新興感染症の制御」を掲げた。この課題に取り組むため、本学大学院医歯薬学総合研究科に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー養成コース」を設置して、グローバルな視点で国際リーダーとして活躍できる人材を育成するための大学院教育を行う。具体的には学位論文作成を通して実施する分野別の専門教育に加え、本学が有するケニアとベトナムの研究施設とフィールド、WHO等の国際機関、海外の協力研究施設、NGO等において実地研修を含む分野横断的なカリキュラムによる実践的教育を行う。これにより熱帯病・新興感染症を分子レベルから疾病制御のオペレーショナルなレベルまで、開発途上国から先進国まで包括的にその状況を俯瞰し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身に付け、感染症危機対応にも知識を持つ人材を育成する。こうした人材には国際レベルの熱帯病・新興感染症制御および感染症危機に対応できる専門家としての活躍が期待され、日本および世界の「平和で安全・安心な生活を保障する人間社会の構築」への貢献につながる。

【特色】

4年間の大学院博士課程の教育により、グローバルな環境で活動できる専門性と国際性を身に着けた熱帯病・新興感染症制御に資する専門家を育成するため下記の取組を実施する。

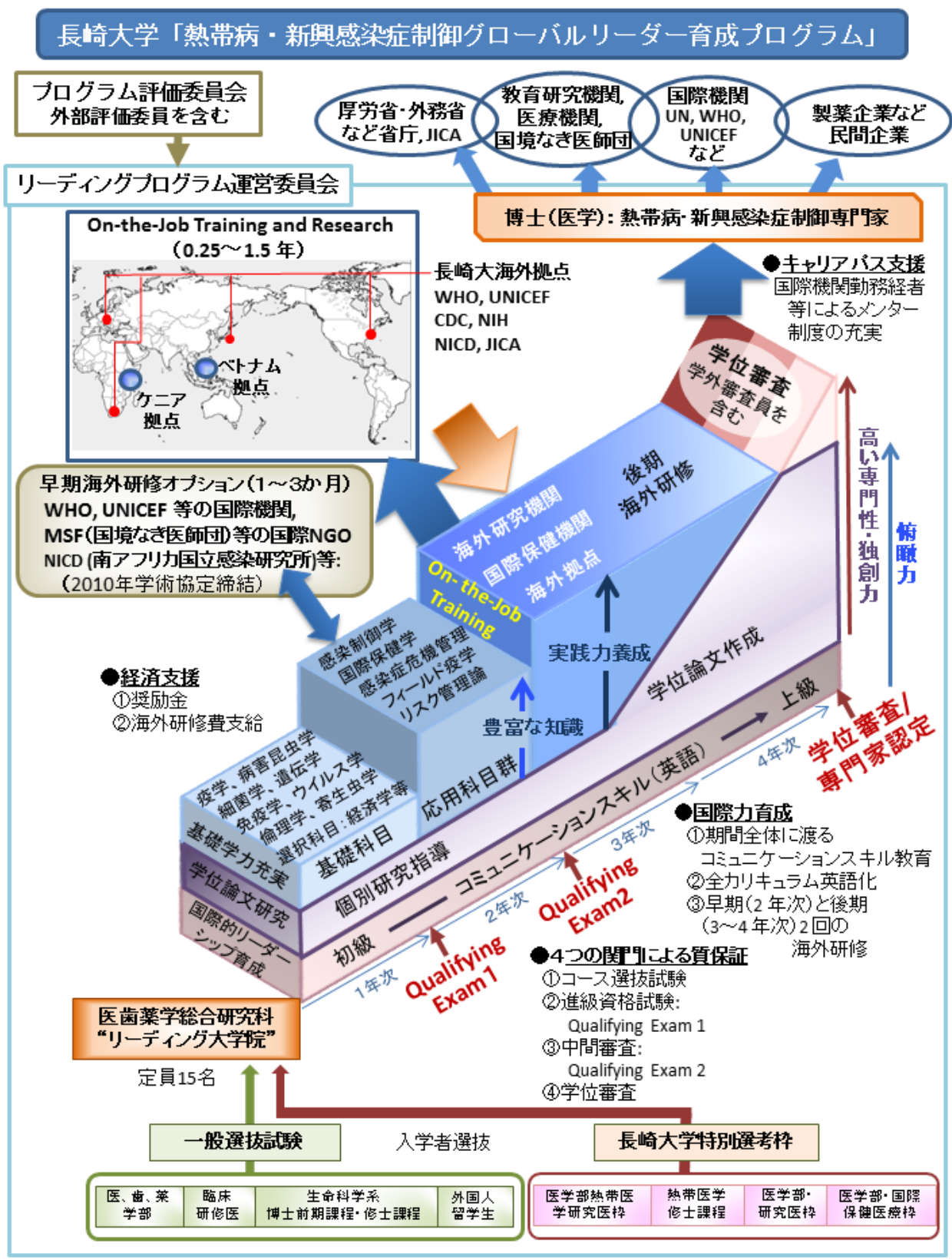
- ・充実した教授陣の英語による横断的なカリキュラム
- ・4年間を通じたコミュニケーションスキルの一貫教育
- ・海外拠点や国際機関等での感染症対策 On-the-job トレーニング、インターンシップ
- ・協力機関(南アフリカ NICD、2010年学術協定締結済等)での BSL4 病原体取扱いトレーニング
- ・倫理教育の導入: 開発途上国における感染症対策専門家に要求される高い倫理性の涵養
- ・学生の選抜: 本学の医学部および修士課程から一貫して熱帯病を学ぶ学生への特別入学枠の設置
- ・学生への経済的支援: 奨励金制度、海外研修経費の支給制度による経済負担の軽減措置
- ・学生への精神的支援: メンター制度の充実(国際機関勤務経験者による進路相談等)

【優位性】

長崎大学は熱帯医学研究所および医歯薬学総合研究科・新興感染症病態制御学系専攻を中心として熱帯・新興感染症の教育・研究に関わる教授陣を増強し、関連する海外学術機関や国際機関との連携を強化してきた。特に2003年からの21世紀COEプログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」、2008年からのグローバルCOEプログラム「熱帯病新興感染症の地球規模統合制御戦略」によって研究教育体制は飛躍的に向上し、研究成果も増加している。2005年、熱帯医学研究所はWHOから「熱帯・新興ウイルス感染症に関する」WHO研究協力センターに指定され、世界的な認知度も高まっている。また、同年からケニア共和国ナイロビ市とベトナム社会主義共和国ハノイ市に大学教員が常駐する研究施設を開設し、アフリカ・アジアでの教育、研究インフラを整備している。加えて、2008年より独立研究科の国際健康開発研究科(修士課程、定員10名)を立ち上げ、8か月の長期海外研修を実施しており、そのノウハウを有する。さらに、2010年には文部科学省最先端研究基盤事業により感染症創薬機器と病原体可視化研究のインフラを整備充実しており、熱帯病・新興感染症について国際的レベルでリーディング大学院プログラムを実施できる優位性を有している。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



機 関 名	長崎大学
プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム
<p>[採択理由]</p> <p>熱帯に蔓延する感染症および国際的に脅威となる新興感染症について、幅広い知識と技術、およびグローバルな俯瞰力を備え教育研究の推進と疾病制御の実践においてリーダーシップを発揮できる国際的人材を育成することを目的とするプログラムであり、長崎大学の歴史とこれまでの実績に立脚したユニークかつ優れた計画である。</p> <p>長崎大学としても本領域を特色ある領域としてその中期目標の第一に挙げ、全学的に支援する姿勢が明確である。更にこの領域に関し 21 世紀 COE プログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」及びグローバル COE プログラム「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」等により積み重ねてきた実績に加え、独立研究科の国際健康開発研究科における 8 ヶ月の長期海外研修や、熱帯医学修士課程における全ての講義・実習を英語で行った実績なども持つほか、ナイロビ市とハノイ市に教員が常駐する教育研究施設を有する。</p> <p>入学者の選抜方策も特殊性を反映した具体的計画が示され、メンター制度や学生に対する経済的支援についても細かい配慮がなされており、グローバルな視点で国際的に活躍できるリーダーが育成できると期待される。</p>	